

5. イチゴ疫病に対する罹病性の品種間差異（情報）			
[要約] イチゴ疫病に対し、‘ さがほのか’、‘ さちのか’、‘ アスカルビー’ は弱い。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

[背景・ねらい]

現在栽培されているイチゴ品種はイチゴ疫病に対する罹病性が明らかではない。そこで、県内で栽培されている品種において疫病に対する罹病性の品種間差異を知り、防除上の資料とする。

[成果の概要・特徴]

1. 本圃においてイチゴ疫病菌 (*Phytophthora nicotianae*) の遊走子懸濁液を株元に灌注接種すると、‘ さがほのか’ の発病度が最も高く、次いで‘ アスカルビー’、‘ さちのか’ であり、‘ 紅ほっぺ’、‘ 章姫’、‘ とよのか’、‘ とちおとめ’ は低かった（図1）。
2. ‘ さがほのか’、‘ さちのか’、‘ アスカルビー’ では接種 10 日後に萎凋・枯死の症状が見られ、その後接種 30 日後まで病勢が進展した。一方、‘ 紅ほっぺ’、‘ 章姫’、‘ とよのか’、‘ とちおとめ’ では生育不良にとどまり、接種 30 日後以降気温の低下に伴い症状が回復する傾向が見られた。

以上の結果から、イチゴ疫病に対し、‘ さがほのか’、‘ さちのか’、‘ アスカルビー’ は *Phytophthora nicotianae* による疫病に対して罹病性が高く、‘ 紅ほっぺ’、‘ 章姫’、‘ とよのか’、‘ とちおとめ’ は低い。

[成果の活用面・留意点]

1. 罹病性の高い品種を栽培する場合、定植前に土壌消毒を行う。

[具体的データ]

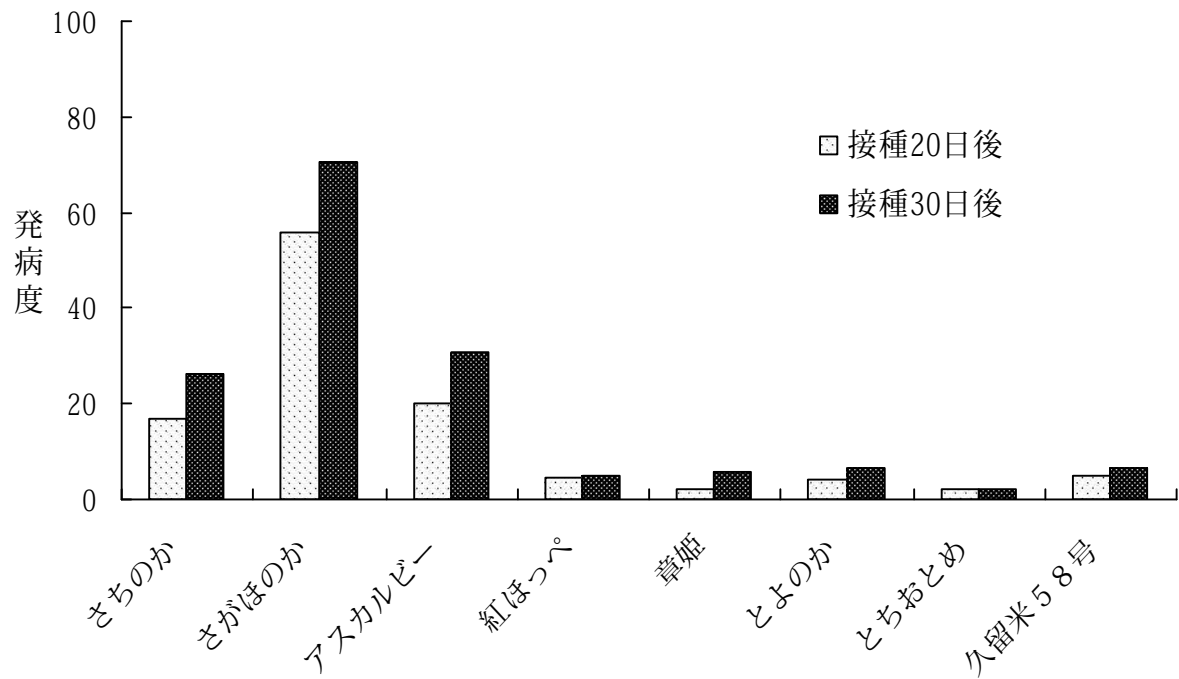


図1 イチゴ疫病に対する罹病性の品種間差

[その他]

試験研究課題・事業名：イチゴに発生する疫病などの生態解明と環境負荷の低い防除体系の開発

予算区分：国補（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成16～18年度